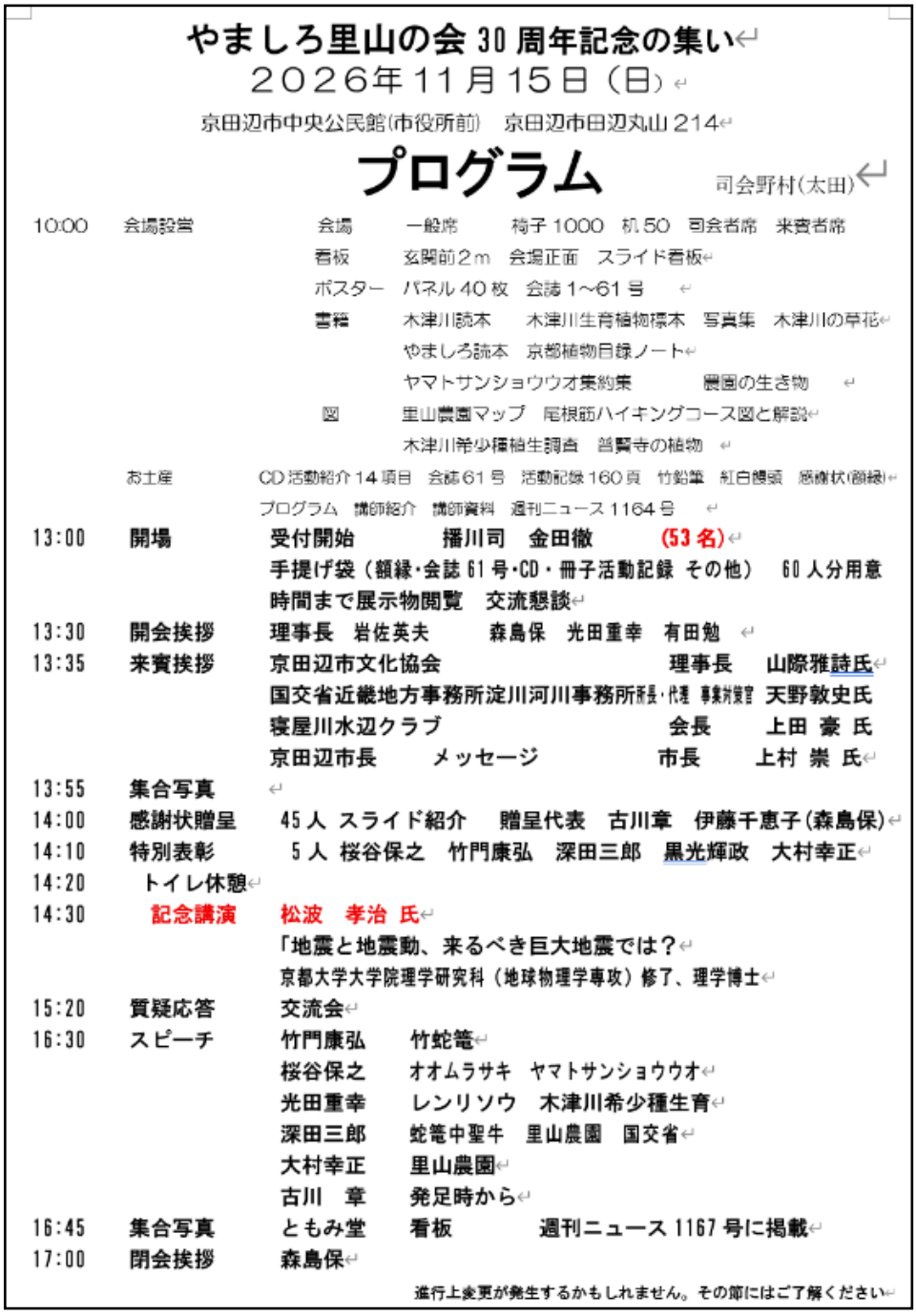
●11 月 11 日(水)は毎週の事務局会議が開かれ、いよいよ記念集会の直前でプログラムの最終確認と残された準備物のチェックが行われました。

プログラムでは司会者が決まっていないのでどうするかとの議論となり、最終的には司会者は経験豊かな野村さんに落ち着き、季節柄体調不良との事もあり、控えを設定することになりました。また感謝状の贈呈を一人一人したいと思うところですが、45 人もの方々となると時間がかかるのではないかといった声があり、特別賞は個別に表彰すること、そして感謝状は代表者男女 2 名で実施し、内容を参加者全員にプリント配布としました。時間があれば紹介スライドを映写できればと思います。また記録の為、録画撮影や録音も実施することが決定されました。現在のところ来賓挨拶は国交省淀川河川事務所、京田辺市文化協会、そして友好団体の寝屋川水辺クラブ。

京田辺市長からはメッセージが届くことが報告され、来賓退席の前に集合写真撮影を行うことが決定されました。記念講演を地震の専門家の松波治孝治先生から話をいただきます。スライドを使ってわかりやすいお話ですのでみなさんのご参加をおまちしています。参加費無料です。



やましろ里山の会 30 周年記念の集い

2026年11月15日（日）

京田辺市中央公民館(市役所前)　京田辺市田辺丸山 214

プログラム　　司会野村(太田)

10:00	会場設営	会場　一般席　椅子 1000　机 50　司会者席　来賓者席
		看板　玄関前2m　会場正面　スライド看板
		ポスター　パネル 40 枚　会誌 1~61 号
		書籍　木津川読本　木津川生育植物標本　写真集　木津川の草花
		やましろ読本　京都植物目録ノート
		ヤマトサンショウウオ集約集　　農園の生き物
		図　里山農園マップ　尾根筋ハイキングコース図と解説
		木津川希少種植生調査　普賢寺の植物
	お土産	CD 活動紹介 14 項目　会誌 61 号　活動記録 160 頁　竹鉛筆　紅白饅頭　感謝状(額縁)
		プログラム　講師紹介　講師資料　週刊ニュース 1164 号
13:00	開場	受付開始　播川司　金田徹　(53 名)
		手提げ袋（額縁・会誌 61 号・CD・冊子活動記録 その他）　60 人分用意
		時間まで展示物閲覧　交流懇談
13:30	開会挨拶	理事長　岩佐英夫　森島保　光田重幸　有田勉
13:35	来賓挨拶	京田辺市文化協会　理事長　山際雅詩氏
		国交省近畿地方事務所淀川河川事務所所長・代理　事業対策官　天野敦史氏
		寝屋川水辺クラブ　会長　上田 豪 氏
		京田辺市長　メッセージ　市長　上村 崇 氏
13:55	集合写真	
14:00	感謝状贈呈	45 人 スライド紹介　贈呈代表　古川章　伊藤千恵子(森島保)
14:10	特別表彰	5 人 桜谷保之　竹門康弘　深田三郎　黒光輝政　大村幸正
14:20	トイレ休憩	
14:30	記念講演	松波　孝治 氏
		「地震と地震動、来るべき巨大地震では？
		京都大学大学院理学研究科（地球物理学専攻）修了、理学博士
15:20	質疑応答	交流会
16:30	スピーチ	竹門康弘　竹蛇竜
		桜谷保之　オオムラサキ　ヤマトサンショウウオ
		光田重幸　レンリソウ　木津川希少種生育
		深田三郎　蛇竜中聖牛　里山農園　国交省
		大村幸正　里山農園
		古川　章　発足時から
16:45	集合写真	ともみ堂　看板　週刊ニュース 1167 号に掲載
17:00	閉会挨拶	森島保

進行上変更が発生するかもしれません。その節にはご了解ください

●会誌 61 号印刷途中でトラブル発生　午後から印刷ストップ

発行を遅らせてきました会誌 61 号記念号の印刷が 11 日午後から開始いたしましたが、30 冊程度を印刷したところで印刷機の敏感さから用紙の置き違いによってストップしてしまいました。早速業者に電話して直していただき、何とか 15 日の記念の集いに必要な部数を準備することができました。12 日(木)には残部数を摺り上げて製本をやり挙げ、発送にこぎ着けられたらと予定をしています。

●11 月 1 日(日)に開催された「タナフェス」で田辺の凄い人という展示が行われました。

前号につづき、掲載された本会員を紹介します。今回は湯川幸子さんです。

※京田辺市文化協会より資料提供いただきました。



Yukawa Sachiko

湯川 幸子

植物を愛する野草はかせ



野草（自然）との出会い

湯川幸子さんは、自然が大好き。そして、野草が大好きです。
植物との出会いは、戦時中の疎開生活までさかのぼります。
大江山の近くに疎開し、学校から帰ると、まず食べるものを探すことが仕事だったそうです。生きるため、食べるために、よもぎやセリ、つくしを摘み、山の中の畑へ向かう道や田んぼの畔にある「食べられるもの」を覚えていきました。何が食べられて、何が食べられないのかを知らなければ生きていけない。そんな時代を過ごされました。戦後も、すぐに暮らしが豊かになったわけではありません。そうした経験が、今の湯川さんの植物への深い関心につながっているのかもしれません。

植物と触れ合うことは「エンターテイメント」

生まれ育ったのは、御土居の近く。そこも十分に緑豊かな場所だったそうですが、田辺に来て、植物の種類の多さに驚いたといいます。
犬の散歩をしながら、道々の草花と遊ぶ。それがいつしか楽しみな時間になりました。湯川さんにとって植物と触れ合うことは、映画を見ることにも似た「エンターテイメント」何気なく目にする雑草にも一つひとつ名前があり、かわいらしいところ、素敵なところがある。そんな植物を見つけることが、楽しくてたまらない遊びなのだそうです。
道端の草花を少しだけ摘み、ドライフラワーにして楽しむこともあります。
ご自宅の花瓶には、5、6年前の植物から今年摘んだ草花まで、さまざまな植物が並び、見事に調和しています。人物写真の背景に写る花瓶も、ぜひじっくり見ていただきたいところです。



ご自宅の庭では、植物との「実験的な戯れ」を楽しんでいます。
以前から楽しみにしていた野ブドウを自宅に植えたものの、なかなか実がならない。調べてみると、雄株と雌株が必要だと分かりました。そこで甘南備山から雄株を、酒屋神社の近くから雌株を採取。今ではたくさんの実をつけているそうです。そんなふうに、植物と出会い、観察し、試してみる。その一つひとつを心から楽しんでいるのが湯川さんです。

大切にしている思い

ココがすごい！

湯川さんが長年、環境パートナーシップの活動を通して大切にしてきたのは、「自然を大切にすること」、そして「共有地の植生の多様さを守ること」です。
森や緑の植物は二酸化炭素を吸収し、酸素を生み出します。また、植物が持つ抗菌作用のある物質などについても科学的に研究されています。「しんどい時は森に行くといいんです。出来たての空気を吸って、大きな木と話をするつもりで行く。深呼吸をすると元気が出ます。私も山へ行くと、行きと帰りで顔が別人のようだと言われるんですよ」そう語る湯川さん。
「自然が無けりゃ、人間、生きていけないよ」湯川さんのこの言葉には、長い人生の中の実感が込められています。自然は、私たちの暮らしや心と深く繋がっているものです。だからこそ、自然を守るためには「無関心でいないこと」が大切だと考えています。珍しい植物を根こそぎ採ってしまう人や、商売のために採取する人がいるのも事実です。地域のみんなが「ここには珍しい植物がある」「取りつくしてはいけない」と知っていれば、守れるものは増えていきます。自然を守る第一歩はまず「知ること」。そして、「自分もこの自然を守らなければ」と思ってもらうこと。
湯川さんは、そんな思いを大切にされています。

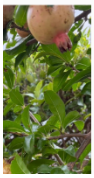


京田辺の人に知ってもらいたい自然のこと



お庭の野ぶどう

山城地域には、本当に多種多様な植物があります。
湯川さんにとって、それはとても誇らしいことです。
身近な場所に、実にたくさんの種類の植物が生きている。
そのこと自体が、この地域の素晴らしさなのです。
「こんなにいい所にいるんだから、知って、好きになってほしい」
まずは、知ってほしい。知ることで、好きになり、
大切にしたいという気持ちが生まれるのではないでしょうか。
その思いから、湯川さんは田辺の植物を描いたスケッチに詩を添えた本を2冊出版されました。小ぶりなサイズの本にしたのは「これを持って歩きながら、
見つけた植物を参照してほしい」という思いがあったのだそうです。
戦時中の大変な経験を振り返る時にも、湯川さんが話してくださるのは、可愛いタヌキを見たこと、雨に降られてずいきの葉を頭にかぶって走ったこと、道に大量発生したサワガニをスカートいっぱいに捕まえたこと――そんな自然との面白く、楽しい思い出ばかりです。
本当に温かな笑顔で、植物の話をしてくださった湯川さん。



「自然を楽しめる」こと。
それこそが、湯川さんの大きな魅力なのだと感じました。

●アユの流下調査　11 月 13 日(金)　山城大橋西詰　19 時から 20 時まで　一度見学がてらご参加ください。一緒に調べましょう。

木津川で初めて実施します　大阪湾へ下るアユの 8 割が木津川で産卵されたものだと御幸橋などでの調査で判明されています。今回はこれまでの御幸橋(木津川・宇治川・桂川)に加えて木津川の山城大橋や泉大橋の二カ所が加わり充実した調査になるります。木津川はかつてアユが大きくなる河であったといわれてきました。科学的な調査を行って木津川のすばらしさを調べられた凄いなあと思います。これまでやってこられた竹門康弘先生も参加されますので期待しています。



●琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、20 周年記念祭が催される。

交流会が結成されて 20 年を経過しましたので小さな交流館「さくらであい館」で開催され 60 人の参加目標で準備されています。上流下流の連携を進め、よい水環境を作りましょう。10 年ほど前、笠置を出発点として大阪淀屋橋八軒屋までを 4 日間のカヌー下りを 2 回行い、藤田カヌーさんのご理解と全面的なご協力を得て、里山の会も成功のために一役を担いました。また、滋賀県や大阪府の多くの皆さんを木津川探訪にお招きいたしました。



QR コード
琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 20 周年記念祭
開催のご案内ページ

十一月に咲く木津川の花



ホソバウナギツカミ

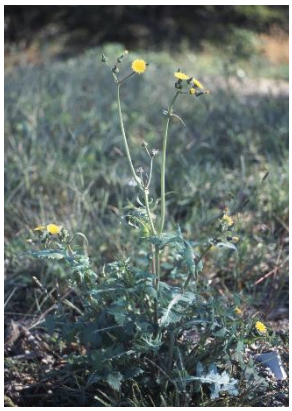


フユイチゴ





クコ





ノゲシ





オギ